



目 次

[平成14年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点
に選定される](#)

[理学部でオープンユニバーシティと体験入学を実施
研究活動だより（34）](#)

[海外からの来訪者](#)

[学会賞等の受賞](#)

[学位授与](#)

[新任教官紹介](#)

[訃報](#)

[人事異動](#)

[各種委員会委員](#)

[行事予定](#)

平成14年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点に選定される

長田義仁教授を拠点リーダーとするCOEプログラムは、理学研究科生物科学専攻、薬学研究科、電子科学研究所並びに遺伝子病制御研究所の研究者により部局横断的に組織され、ポストゲノム研究を中心としたバイオサイエンス研究と生命科学に関わるナノテクノロジー研究を合わせる「バイオとナノを融合する新生命科学拠点」のプログラムを申請し選定されました。

本プログラムでは次の3項目が重点的に推進されます。（1）研究：タンパク質、糖鎖、脂質などに焦点をあてたポストゲノム基礎研究と創薬やテーラーメイド治療につながるポストゲノム発展研究および新解析技術やバイオ新素材の開発につながるナノバイオロジー研究、バイオサイエンスとナノテクノロジーを融合させる新しい生命科学領域研究、（2）研究者育成制度の導入：先端生命科学分野の次代を担う優秀な研究者養成を目指したCOE特別研究員（上級レベル）、COEポスドク研究員、大学院リサーチアシスタント制度の導入、（3）全学的研究組織の再編構想：時代の要請に的確に応えることが可能な本COEを基盤とした全学的な研究組織の見直しと再編計画を立案する。

理学部でオープンユニバーシティと体験入学を実施

オープンユニバーシティ

高校生や保護者，一般市民の方々に北大を知っていただくための「大学一斉開放」が，8月5日（月）に全学一斉に行われました。

理学部においても，当日午前と午後の2サイクルが実施され，5号館低層棟2階の大講義室に，高知県や中国（上海市）など国内外約100校から266人（うち道外110人，中国2人）が参加しました。

学部長の歓迎挨拶に続いて，各学科長・学科委員又は教務委員から，各学科・分野の教育内容について，それぞれユニークな紹介がされ，高校生たちの真剣な表情が印象的でした。



学科の説明に真剣に聞き入る高校生たち

高校生体験入学

オープンユニバーシティ翌日の8月6日（火）（生物科学科の一部は7日までの2日間）理学部体験入学が行われました。

高校生に自然科学への関心呼び起こすとともに，理学部で行われている教育・研究の実際を理解してもらうため，「高校生一日入学」として始められたこの催しは，今年で11回目となります。

平成8年度から文部省（現文部科学省）の委託研究事業として続けられてきた「高校生のための数学（夏季・春季）講座」が今年からは体験入学として衣替えし，休止していた一部の分野の復帰と合せて，5学科7分野のすべてが平成14年度の体験入学にとりくみました。

今年の体験入学には，遠くは京都府や兵庫県を始め，道外20校を含む73校から合計193人（うち道外25人）もの高校生たちが参加しました。

参加した生徒からは，「進路選択の参考になった。」，「何としても北大に入りたいと思うようになった。」などの声がたくさん寄せられましたが，感想文に寄せられた生徒たちの声の一部を抜粋して，以下に紹介します。

数学科

- ・「無限がいっぱい」
- ・「何が数学なのか？」という認識が改められて面白かった。
- ・OHPの絵がすばらしかった。大学に入学してこういう講義なら楽しい。ただし、ピンクの字は見えなかった。
- ・黒板の字をもっと大きくきれいに書いて欲しい。
- ・「高校1年のレベル」にとっては難しかった。
- ・例題が多く、わかりやすかった。
- ・「自然の理(ことわり)」を知るための手段としての数学の意味が少しだけ見えた気がした。

物理学科

- ・「宇宙について」と「キュリー夫人の夢」は、難しいところもあったけど、色々と興味がわいてきた。
- ・レーザー実験や工作が面白かった。
- ・「超流動」という不思議な現象は、非常に興味深いものだった。
- ・今回の体験で、北大理学部には、より一層興味がわいた。

生物科学科

- ・高校では体験できないようなことや、研究の一部までもが見られるとは思ってもしなかった。また参加したい。
- ・カエルの脳を免疫染色法で見たのは、とてもきれいだった。プラナリアも実際に見てみたら意外と可愛かった。ヒドドラも面白かった。
- ・(北大の)学生さんたちは「きっと暗くて、本当に研究ばかりしているんですー」っていう人たちばかりかと思っていたけど、皆さんとても明るくて楽しかった。
- ・はじめはミズズとかカエルとか気持ち悪かったけど、何階も顕微鏡で見てたらだんだん可愛く見えてきた。はるばる来て良かった。
- ・顕微鏡で見る世界がこんなに興味深いなんて、迂闊でした。
- ・ラットの解剖を「生」で見て、とっても刺激を受けた。脳がこんなにやわらかくてもろいものだとは知らなかった。
- ・プレパラートに脳片をはりつけるのも大変だった。実験により、北大の学習内容も、建物の複雑さも理解できた。脳はすごかった。
- ・私が大学でやりたいことが「時間を忘れて夢中で実験したい」というものなので、北大だったらその夢を実現できると改めて実感した。
- ・初めは「2日間は長い」と思っていたが、今ではもっと色んなことをしてみたくて、(実験を)終わりにしなければならぬことが残念でなりません。
- ・高校で使う光学顕微鏡がなんだかとてもチャチなものに思われ、高校の授業がますますつまらなく感じるようになるかも知れないが、こういう楽しい大学に入るための準備として、頑張って勉強していきたい。

- ・もっともっと自分の知らない数学を学んでみたい。
- ・大学の勉強内容を具体的に知ることができ、入学するときのことが楽しみになった。
- ・いろいろな角度から見つめ、数学の多面性を自分の中で追求していきたい。
- ・「数学は答えが一つとは限らない」といわれた言葉が忘れられない。
- ・私は数学が好きではないので、今回のような講座を受けて数学を好きになっていきたい。来年も参加して、今回わからなかったことがわかるようになっていければと思う。

化学科

- ・フェノール系の溶解度曲線の決定が面白かった。見たことのない機械ばかりで「さすが北大だわー」と思った。
- ・化学の知識を生物学に役立てるという実験が面白かった。
- ・物理的な化学もあれば、生物的な化学もあると知り、ケミストリイに対し、またさらなる関心が増えた。
- ・構造化学体験実験：私は物理が苦手な初めはとまどったが、やってみると少し物理も好きになった。
- ・案内パンフレットの「テーマ」だけでは、どんな実験をするのかわかりにくい。



実験にとりくむ生徒たちの様子

- ・今まで「生物」といえば教科書の言葉を暗記することばかりに気をとられていたが、それは本質ではないことをしっかり覚えておこうと思う。
- ・大学の紹介文だけではわからない色んなことを実習できた。勉強は好きじゃないけど、やないと受からないので頑張る。
- ・ミクロの世界の写真も撮れたので、良いお土産になった。

地球科学科（地球惑星物質科学）

- ・ スゴイ設備にスゴイ装置，まあ何とも言えぬ充実感にひたった1日でした。中でも 先生は直感的にスゴイ人だと思い，・・・・・・2年後は是非 先生の下で勉強したい。
- ・ カイパーベルト，オールト雲など知らなかったことを学び，顕微鏡で見たプランクトンの化石は色々な化石がありきれいだっただ。少量の有機物から昔の地球の環境がわかるということには驚いた。
- ・ 教授の講義の熱心さが伝わり，北大の良さを改めて思った。実験での微小の世界は，奥深く面白みのある美しい世界だった。

地球科学科（地球物理学）

- ・ 期待と緊張で疲れたけど，憧れの北大キャンパスに来て嬉しかった。
- ・ 特に「オーロラの謎」が印象に残った。私の部屋の窓からいつも見える藻岩山の上にオーロラが1年前に現れたという事実にはかなりの衝撃だった。
- ・ オーロラは常に北極・南極上空にあるということや他の惑星でもオーロラが見られるというような，今までまったく知らなかったことを知ることができて良かった。
- ・ 地震計を見たのは初めてだったし，「波をつくる」実験では，波が水の円運動だということも初めて知った。
- ・ 目の前でつくられていく波の動きを見ていて，「波」というものへの親しみ（？）が増した。
- ・ 「雪の結晶」で，自分たちできれいな結晶をつくれたことに感動した。今後，雪を見るたびに今回のことを思い出すと思う。

研究活動だより(34)

職・氏名	博士課程2年 永山昌史
専攻等名	物理学専攻
学会等名	4th World Congress of Biomechanics
開催期間	平成14年8月4日～9日
開催地	カルガリー（カナダ）
開催場所	Telus Convention Center
発表テーマ	Time-lapse of Cellular Stiffness Measured with Scanning Probe Microscopy Depending on Cell Migration

研究発表の概要

私は、8月4日から9日までカルガリー（カナダ）で開催された第4回World Congress of Biomechanicsに参加しました。カルガリーといえば、1988年に冬季オリンピックが開催された都市としてご存知の方も多いかと思いますが、カナディアンロッキーへの玄関口として、日本人旅行者も数多く訪れる都市です。私自身も3年ほど前に一度カルガリーを訪れたことがあるため、まったく初めての土地を訪れるわけではないのですが、海外で行われる国際学会に一人で参加するという点で、多少の不安を抱きつつ札幌を出発しました。カルガリー国際空港へは日本からの直行便がないため、まず成田からサンフランシスコへ飛び、さらに2時間30分のフライトを経てカルガリー入りしました。8月3日深夜に到着した私を最初に出迎えてくれたのは、記録的な寒さでした。深夜とはいえ、空港から一步出た途端、夏とは思えないような寒さに吐く息も白くなり、非常に驚きました。結局、時期はずれの寒波はその日だけでしたが、通常でも最高気温が20度をこえず、札幌の夏よりもさらに一段と涼しい印象を受けました。

Biomechanics（バイオメカニクス）という分野は、理学研究科の各専攻にとってあまり馴染みのない分野かもしれませんが、私なりに少し説明させていただきます。日本語では生体力学と訳されるように、一言でいうと生体内における力学を扱った分野です。ただその対象は幅広く、例えば、細胞内における分子モーターによる力の発生、細胞の外力に対する応答、血流による血管の組織的な変化、運動時に膝関節にかかる負荷など、まさに分子レベルから個体（ヒト）レベルまでありとあらゆる階層についての研究が含まれている分野です。そのため本学会の発表件数もポスター発表で700件以上、講演は招待講演も含めると約600件と非常に多く、かなり大規模な学会でした。参加者のバックグラウンドも多種多様ではありますが、細胞や組織レベルの研究では工学の機械系の研究者が多く、器官や個体レベルの研究では、医学とくにスポーツ医学の研究者が多いという印象を受けました。私が今まで参加してきた、生物物理学会や細胞生物学会が主に理学の生物系の研究者が多いのとは、少し異なる雰囲気です。また実は、前回の第3回World Congress of Biomechanicsは1998年に北大で開催されており、多少なりとも北大にゆかりのある分野です。

学会期間中、私は細胞や組織レベルの講演を聴いてまわりました。プログラムもよく編成されており、関係する分野のセッションは時間が重ならないように割り当てられていましたので、興味のある講演はすべて聴くことができました。発表の内容は、筋肉収縮のメカニズムに関する研究と血管や血球細胞の機械刺激（血流）に対する応答についての研究とが主な2本の柱でした。この2つのテーマについては、生物物理学会や細胞生物学会においても非常に多くの研究発表がなされており、おもに細胞内のシグナル伝達経路や関与するタンパクの同定といった微視的な研究が行われております。しかしながら、本学会では機械工学系の研究者が多いためか、細胞ひとつではなく多数の細胞からなる系を扱い、その系がどのように機能するかに注目した巨視的な研究が多く見られました。

私は、細胞内で発生する力（エンジン）とその力を細胞外へどのように伝えるか（タイヤ）という細胞の運動機構を、かたさの変化を測定することにより研究しており、その成果についてポスター発表を行いました。与えら

れた発表時間は2時間でしたが、興味をもってくださいる人が多く、2時間しゃべりっぱなしという状態でした。その中でも、あるイスラエル人研究者とスイス人研究者とは、興味が重なっていたり同じ装置を使っていたりということで、私の論文の別刷りを郵送することとなり、今後よいアドバイスを得られることが期待されます。また、今まで生物物理学会や細胞生物学会ではあまり接点のなかった、機械工学系の日本人研究者達と知り合うことができました。彼らも細胞の運動やかたさに興味をもっていたり、実際に測定しているグループもいたりして、非常に有意義な意見交換をしました。いろいろな研究者と意見交換をすることの重要性は、普段どの学会に参加しても常に感じることです。その中でも特に、本学会においては同じ現象を扱っていながらも異なる視点、異なるアプローチからの研究を行っているグループが多く、非常に大きな驚きと新たな知見を得ることができました。同時に、自分のホームグラウンド以外の他分野（他学会）へも積極的に参加し、いろいろな接点を持つていくことの重要性を感じました。しかしながら、私の英語力不足のため、研究内容に深くつっこんだ討論は主に日本人研究者と日本語を使ってのみだったのが非常に残念でなりません。

最後に、このような機会を与えてくださるため、各方面でご尽力いただいた方々に感謝いたします。

(この発表は、株式会社岩崎からの研究助成による。)

◆ 海外からの来訪者

期間：平成14年7月1日～9月30日

受入れ専攻等名>> [数学専攻](#) | [物理学専攻](#) | [化学専攻](#) | [生物科学専攻](#) | [地球惑星科学専攻](#) | [前回追加](#)

(受入れ専攻等名：数学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.7.21～7.28	台湾・国立台湾大学・ 助教授・Jenn Nan Wang	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打ち合わせ
14.7.22～7.26	インド・Tata Inst.of Funda.Res. School of Math,India・ 教授・R.V.Gurjar	研究打ち合わせ
14.7.24～8.3	中華人民共和国・復旦大学数学研究所 ・副助教授・劉 憲高	物質科学に現れる偏微分方程式の解析に関する研究打ち合わせ
14.7.28～8.8	スイス・チューリッヒ大学・ 教授・Michel Chipot	Nonlocal evolution problems
14.7.29～8.3	大韓民国・ソウル国立大学理学部・ 準教授・Hyeonbae Kang	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打ち合わせ
14.7.30～8.3	フランス・Rouen Univ.・ 教授・Chao-Jiang Xu	Logarithmic Sobolev Inequality for infinite degenerate elliptic operators
14.7.30～8.6	イギリス・ウェールズ大学カーディフ校・ 教授・David E.Evans	「量子群の作用素環論的見地による組織的研究」に関する研究打ち合わせ
14.8.1～8.4	中華人民共和国・大連理工大学・ 教授・王 仁宏	「異方性と拡散による形態変化の数理解析」に関する研究打ち合わせ
14.8.26～8.31	ポーランド・ワルシャワ大学物理学部・ 教授・S.L.Woronowicz	研究打ち合わせ
14.9.3～9.8	イギリス・Univ.New Castle upon Tyne,School of Mathematics and tatics・ 助教授・Jordan Stoyanov	確率解析とその関連した話題のシンポジウムに出席し、連続パラメータを持つ確率過程に対する質量輸送問題に関する研究打ち合わせ
14.9.15～9.28	ドイツ・マグデブルグ大学・ 教授・Klaus Deckelnick	「異方性と拡散による形態変化の数理解析」に関する研究打ち合わせ
14.9.23～9.29	オーストラリア・School of Mathematics and Computer Science University of New England・ 助教授・Harris,Adam	「結晶成長現象における幾何測度論的な数理解析」に関する研究打ち合わせ
14.9.29～10.3	スロヴァキア・コメニウス大学・ 教授・Marek Fila	「異方性と拡散による形態変化の数理解析」に関する研究打ち合わせ

(受入れ専攻等名：物理学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.6.27～7.27	イスラエル・Weizmann Institute・ 助教授・Shmuel Gurvitz	原子核データについての意見交換及びトン ネリング現象の半量子論的記述に関する共 同研究
14.9.12～14.10.15	ロシア・クルチャトフ研究所・主任 研究員・アンドレーヤクボフスキー	量子スピン系における磁気励起に関する研 究

(受入れ専攻等名：化学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.8.5	スウェーデン・ウプサラ大学・ 教授・Sten-Eric Lindquist	表敬訪問
14.8.9	中華人民共和国・中国科学院物理科学技術研究所 ・Baowen Zhang	表敬訪問
14.8.13	ドイツ・ハーン・マイトナー研究所 ・Helmut Tributsch	表敬訪問
14.9.4～9.6	大韓民国・西江大学・ 助教授・Kim Doseok	表敬訪問
14.9.9～9.12	ドイツ・ホーヘンハイム大学・ 教授・Wolfgang Kraus	「Investigation of biologically active plant constituents using online Lc bioassay, LC-NMR and LC-MS techniques」 に関する特別講演
14.9.17	オーストリア・グラーツ工科大学・ 教授・Adolf Winkler	表敬訪問
14.9.17～9.19	ベルギー・ローバンカソリック大学・ 教授・I.E.Marko	「Aerobio,Copper-Catalysed Oxidation of Alcohols」に関する特別講演および天 然物合成における情報交換
14.9.26～29	アメリカ・オレゴン大学・ 教授・Jack Kaplan	その他

(受入れ専攻等名：生物科学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.4.1～8.31	インド・クレジデンシカレッジ・ 教授・Samir Gangopadhyay	高分子ゲルに関するディスカッションを行 う
14.6.23～7.29	中華人民共和国・一般・周 勇	蛋白質の自動構造解析ソフトウェアの開発 に関する共同研究実施のため
14.7.3～7.8	ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館・ 研究員・Joachim Scholz	デーデルライン標本調査・研究打ち合わせ
14.7.16～7.24	イギリス・サセックス大学・ 上級研究員・George Kemenes	「軟体動物腹足類の長期記憶機構における CREBとC/EBPの役割」に関する共同研究打 ち合わせ実施のため
14.7.25～8.5	カナダ・University of British Col- umbia・ 助教授・Sandra C.Lindstrom	理学部植物標本室(SAP)での標本調査
13.8.11～14.8.10	タイ・シルパコン大学工学部バイオテクノロジー学科・ 講師・ブドサラボン・ナガパンヤ	高等植物の糖シグナリング・輸送の分子機 構に関する共同研究
14.8.19～11.16	インドネシア・インドネシア科学院生物学研究所・ 研究員・Sry Hartini	論文博士取得のための研究指導を受けるた め

(受入れ専攻等名：地球惑星科学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.7.26 ~ 16.7.25	トルコ・Kandilli観測所・Bogazici大学・研究員・Oguz Ozel	マルマラ海で発生が予測されている大地震によるイスタンブールでの強震動の予測
14.8.22 ~ 11.28	ドイツ・キール大学海洋地質学研究所・教授・Hans-Ulrich Schmincke	火砕流の噴火ダイナミクスと運搬プロセスに関する研究
14.8.22 ~ 11.28	ドイツ・キール大学海洋地質学研究所・客員研究員・隅田 まり	屈斜路カルデラ及び摩周カルデラの噴火史に関する研究
14.9.12 ~ 11.6	ロシア・ステクロフ数学研究所（ロシア科学アカデミー）・首席研究員・Mikhail Popov	漸近波線理論による不均質及び異方性媒質の地質波電播

（受入れ専攻等名：地球惑星科学専攻）

前回（平成14年4月1日～6月30日）追加

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
14.6.21 ~ 6.27	慶応義塾大学・客員教授・Michael Keane	On the spontaneous emergence of opinions

◆ 学会賞等の受賞

北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻 馬渡駿介教授は、「無脊椎動物の分類学的研究」により、平成14年9月26日、社団法人日本動物学会から、日本動物学会賞を受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 蒲生俊敬教授は、「背弧海盆及び中央海嶺熱水系の地球化学的研究」により、平成14年9月27日、日本地球化学会から、日本地球化学会賞を受賞されました。

◆ 学位授与

平成14年9月25日学位授与者(7名)

(課程博士)

栗谷 正(化学専攻)

Second Harmonic Generation Study of Electrochemical Processes at Gold Electrode Surfaces (主査：魚崎 浩平教授)

郡 俊 志(化学専攻)

Quantitative Analysis of Hemoglobin Oxygenation State in Human Adult Head - A picosecond time-of-flight method in turbid media - (主査：田村 守教授)

齋藤俊哉(化学専攻)

Deposition and Dissolution Processes of Lithium on Gold Electrode - A Scanning Tunneling Microscopy Study - (主査：魚崎 浩平教授)

佐藤知絵(化学専攻)

Oxygen metabolism and blood flow regulation in the activated area of rat somatosensory cortex: approaches by optical measurements (主査：田村 守教授)

土井貴弘(化学専攻)

Studies on Structural and Magnetic Properties of Perovskite-Related Compounds $\text{Sr}_2\text{LnRuO}_6, \text{Ba}_3\text{LnRu}_2\text{O}_9$ (Ln=Y, Lanthanides) (主査：日夏 幸雄教授)

勝山吉徳(生物科学専攻)

Creation of High Strength Hydrogels with Low Surface Friction (主査：長田 義仁教授)

藤谷直樹(生物科学専攻)

Structural Analyses of the Antimicrobial Peptides Derived from Horseshoe Crab by NMR spectroscopy, (主査：新田 勝利教授)

◆ 新任教官紹介

たかくさぎ さとる
高草木 達

(化学専攻分子変換化学講座助手)

(平成14年9月16日採用)



最終学歴：平成14年9月東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程退学、
略歴：平成13年4月日本学術振興会特別研究員(DC2)、
専門分野：表面物理化学

どい よしひろ
土井貴弘

(化学専攻物性解析化学講座助手)

(平成14年10月1日採用)



最終学歴：平成14年9月北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了、学位：「博士(理学)」、
略歴：平成12年4月日本学術振興会特別研究員(DC1)、
専門分野：無機固体化学、磁性

◆ 訃報

名誉教授 林 正一（享年88歳）

名誉教授（元理学部教授）林正一氏は、病氣療養中のところ平成14年8月4日（日）午前5時25分、ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

名誉教授 都筑 俊郎氏（享年72歳）

名誉教授（元理学部教授）都筑俊郎氏は、病氣療養中のところ平成14年9月16日（月）午前7時45分、ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

技術専門職員 工藤 忠行氏（享年57歳）

技術専門職員（理学研究科技術部（極低温液化センター））工藤忠行氏は、病気のため平成14年9月18日（水）午後9時54分、ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

◆ 人事異動

平成14年9月13日付け発令
(辞職)

庶務掛(研究支援業務担当)事務補助員

竹内由香

平成14年9月16日付け発令
(採用)

化学専攻分子変換化学講座助手

高草木 達

東京大学大学院理学系研究科博士後期課程から

平成14年9月25日付け発令
(辞職)

附属地震火山研究観測センター事務補助員

鈴木美和

平成14年10月1日付け発令
(転出)

生物科学専攻形態機能学講座助教授

山岡直人

愛媛大学農学部教授へ

数学専攻空間構造学講座助手

高岡秀夫

神戸大学理学部助教授へ

生物科学専攻系統進化学講座助手

高久元

北海道教育大学教育学部助教授へ

庶務掛

鶴木貞男

学務部学生課総務掛へ

教務掛

佐藤真紀

医学研究科・医学部教務掛へ

会計掛

重 金 千賀子

農学研究科・農学部応用生命科学専攻育種工学講座へ

(採用)

化学専攻物性解析化学講座助手

土 井 貴 弘

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程から

庶務掛

渡 邊 勉

会計掛事務補助員

佐 藤 千 里

(転入)

教務掛

下 澤 保 裕

歯学研究科・歯学部総務課会計掛から

会計掛

石 田 玉 美

経理部第二契約課政府調達掛から

◆ 各種委員会委員

全学関係

学生委員会インターンシップ専門委員会
(任期なし)

化学専攻 教授 田中 皓

施設・環境委員会施設計画専門委員会「施設有効活用推進部会」
(14.7.1~16.6.30)

数学専攻 教授 林 実樹廣

安全・防災委員会病原性微生物等安全管理専門委員会
(14.4.1~16.3.31)

生物科学専攻 助教授 高田 泰弘

広報委員会広報誌「リテラ・ポプリ特別号」編集専門委員会
(14.6.1~16.3.31)

附属地震観測所 教授 島村 英紀

触媒化学研究センター運営委員会
(14.6.8~16.6.9)

化学専攻 教授 魚崎 浩平

アイソトープ総合センター運営委員会
(14.7.1~16.6.30)

化学専攻 教授 矢澤 道生

研究推進戦略会議
(14.9.1~16.3.31)生物科学専攻 研究科長 長田 義仁
教授 高橋 孝行研究推進委員会発明専門委員会
(14.10.1~16.9.30)

生物科学専攻 助教授 出村 誠

低温科学研究所共同利用委員会
(14.10.1~15.9.30)

地球惑星科学専攻 講師 遊馬 芳雄

共同利用施設量子干渉方式広温度領域磁化測定研究室
運営委員会

(1 4 . 1 0 . 1 ~ 1 6 . 9 . 3 0)

物理学専攻

物理学専攻

化学専攻

生物科学専攻

教 授

助教授

助教授

助教授

伊 土 政 幸

網 塚 浩

今 村 平

佐々木 直 樹

◆ 行事予定

月	日	曜	事 項
10	1	火	第1学期専門科目成績提出締切
	1	火	第2学期授業開始
	1	火	専攻長・学科長会議13:30
	4	金	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次試験実施の有無締切
	9	水	学部学生(2年次以上)履修届受付(～10日)
	11	金	研究科教授会13:30
	15	火	AO入試出願期間(～21日)
	17	木	国立10大学理学部長会議(東京)
	18	金	国立大学理学部長会議(東京)
	29	火	学位申請(11月付託)締切
11	1	金	専攻長・学科長会議13:30
	5	火	AO入試第一次選考発表
	8	金	研究科教授会13:30
	15	金	12月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	19	火	学位申請(12月付託)締切
	24	日	AO入試第二次選考
	29	金	専攻長・学科長会議13:30
12	6	金	研究科教授会13:30
	6	金	学部教授会15:30
	6	金	AO入試合格発表
	24	火	理学研究科・理学部冬季休業(～1月3日)
	25	水	学位記授与式
	25	水	全学教育部冬季休業(～1月8日)
1	6	月	学位申請(1月付託)締切
	9	木	全学教育部補講日(～10日)
	10	金	専攻長・学科長会議13:30
	14	火	平成15年度第1学期授業時間割提出締切
	16	木	研究科教授会13:30
	17	金	平成15年度大学院授業科目シラバス原稿提出締切
	17	金	休講日(大学入試センター試験準備)
	18	土	大学入試センター試験(～19日)
	20	月	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次願書受付(～24日)
	24	金	学位申請(2月付託)締切
	31	金	専攻長・学科長会議13:30

理学部案内

広 報

北海道大学大学院理学研究科・理学部
広 報

[・最新号\(2002.7月\)](#)

[・19号\(2002.4月\)](#)

[・18号\(2002.1月\)](#)

[・17号\(2001.10月\)](#)

[・16号\(2001.7月\)](#)

[・15号\(2001.4月\)](#)

[・14号\(2001.1月\)](#)

[・13号\(2000.10月\)](#)

[・12号\(2000.7月\)](#)

[理学部案内目次へ](#)

[理学部長のメッセージ](#) / [沿革](#) / [学部・学科](#) / [第三者評価](#) / [交通手段](#) / [職員一覧](#) / [広報](#)

